

# 長崎純心大学 医療・福祉連携センター

## 学生・卒業生の声

### 講演会・シンポジウム

#### 「地域における医療と介護の連携に関する研究会」

平成 26 年 3 月 24 日

#### 学生感想

現代福祉学科 4 年 竹内亜梨紗

山田章平先生の講演では、講演のテーマである、「地域における医療と介護の連携」について、人口動向の変化や人口移動の状況など、わが国の社会背景から、人々の暮らしの中で今後、医療と介護が連携していくことの重要性について改めて考えることが出来ました。特に、山田先生の講演の中で、団塊の世代が後期高齢者となり、認知症高齢者の増加や高齢者独居世帯の増加が予想される 2025 年問題というのは、都会に限った問題ではなく、地方にも広がる問題であり、国全体でその対策を考えていかなければならないこと、また、高齢者人口の増加の先には、少子化や年間死亡者数の増加に伴う日本の総人口の減少という問題を抱えているということも深刻に受け止めなければならぬと感じました。加えて、わが国の現状として、亡くなる人の 8 割が病院、1 割が施設、残りの 1 割が自宅で亡くなっている中で、介護が必要となっても、7 割以上が自宅で生活することを望んでいるということがわかりました。そのような中で、国が現在、進めている地域包括ケアは、住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みであり、人々の福祉の向上に繋がる画期的なシステムであると感じました。しかし、その地域包括ケアを進めていくにあたって、地域という、広いフィールドの中でも医療と介護が連携し、一体的に提供できる体制が、人々が安心して地域での生活を継続するうえで必要であり、そのためには、医療、介護、福祉の専門職が互いの専門職を理解し、尊重しあえる関係を構築していかなければならないということを改めて理解することが出来ました。

また、今回新たに理解出来たことが、国の進める地域包括ケアのあり方は、地域ごとのあり方があるということでした。地域の実情に合わせた支援というのは、今回、山田先生から、医療と介護の連携の連携に対する地方の取り組みとして、熊本県の行う、地域の縁がわ、認知症施策、地域包括ケアについてお話していただいたように、新たなアイデアというか、今までにない取り組みにも挑んでいく姿勢や、その取り組みを地域住民や行政、それに関わる多職種が理解したうえで連携、協力しあうことが必要になってくるのではないかと思います。先生のお話の中で、互いの専門職について尊重し合うことの大切さということも指摘されており、私個人としても、今後福祉の仕事させていただく中で、多職種と関わる機会際には、互いの専門性を尊重しあうことを忘れず、同時に、自身の専門性についても見直していくことを心がけたいと思います。